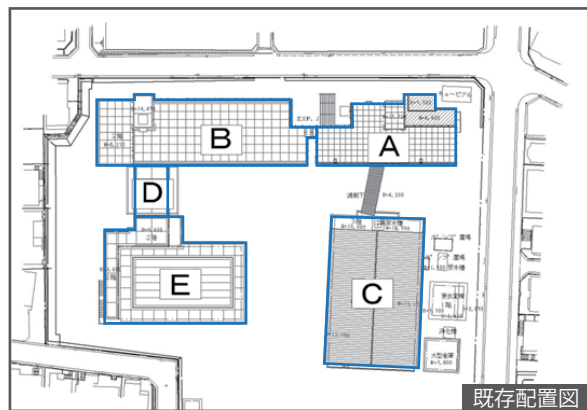


# 深沢中学校施設整備計画報告書 概要版

## ○既存建物概要

所在地：東京都世田谷区新町  
 敷地面積：14,382.00㎡  
 既存延床面積：7,677.665㎡  
 生徒数：381人（11クラス）  
 教員数：44人



既存校舎面積・築年数

既存棟名	延床面積 (㎡)	建設年
A棟	1,680.409	1963(S38),1964(S39),2001(H13)
B棟	2,790.610	1975(S50),1979(S54)
C棟 (体育館)	1,864.408	1980(S55)
D棟・E棟 (プール)	1,151.300	1983(S58)

## ○検討委員会

<第1回検討委員会（9月27日）>

○内容：躯体の長寿命化対策、ワークショップ等

主な意見

- ・従来のブレース補強でなく、アウトフレーム補強の検討
- ・正門廻りのファサードデザイン、けやきの存続の検討
- ・外断熱を施した場合の日射遮蔽の検討 など

<第2回検討委員会（11月20日）>

○内容：ユニバーサルデザイン、環境配慮施策等

主な意見

- ・A棟減築の検討
- ・体育館の熱源の検討
- ・共用部の改善検討（明るさ等） など



委員名簿

分類	氏名	役職
有識者	小林 正美	明治大学教授
	野沢 正光	野沢正光建築工房
区民	鍵和田 和明	前PTA会長、学校運営委員
教職員	池田 富太郎	深沢中学校学校長
	高下 浩淳	深沢中学校副校長
区職員	渡辺 正男	施設営繕担当部長
	菊池 弘明	教育委員会事務局 教育環境推進担当部長
	佐藤 絵里	施設営繕担当部営繕第二課長
	安間 正伸	教育委員会事務局施設課長

## ○ワークショップ

■開催日：10月12日 ■参加者：2年生（140人）

■目的：実際に学校を利用している生活者の視点で、現状の学校の改善点についてのアイデアと普段生活しては気づかないバリアについて体験してもらうことでユニバーサルデザインについて理解・関心を深めるきっかけづくりの場とする。

■内容：全体生徒で深沢中学校の長寿命化、ユニバーサルデザインについての講義。グループを【施設散策】と【福祉体験】の2つに分け体験学習を行う。

【施設散策班】

車いす、アイマスク、高齢者疑似体験器具を着用して校舎内・敷地内を散策。ユニバーサルデザインの観点で、「ここは改良した方が良い」と思う場所をメモ・写真で記録し、散策終了後、気付いたことを参加者全員の前で発表。

【福祉体験班】

体育館・格技室で車いす体験、高齢者疑似体験を実施。

○車いす体験：バスケットゴール体験、マット上の走行・段差走行、ジグザグ走行、階段体験

○高齢者疑似体験：財布からお金を取り出すなど手元作業の大変さを体験

起き上がるなど日常動作の大変さを体験

■体験の感想

【施設散策班】

- ・手すりの無い階段や廊下ちょっとした段差が怖かった。普段の目からの情報がいかに大切であるかを感じた。
- ・車いすではトイレに入るのが大変。スロープはスピードが上がって怖い。
- ・車いすで通行するには机の間隔やドアが狭かった。
- ・昇降口の段差は車いすは登れない。外部は地面がぼこぼこしているし、木が多かったので車椅子では移動しづらい。
- ・スロープが在るところまで遠回りしなければいけない。 . . . など

【福祉体験班】

- ・高齢者の人は目等が悪いのでバリアフリーにしないと動くのが辛いから、思いやりが欲しいと思った。
- ・車椅子を体験して、大地震のときに避難所になるかもしれない学校の校舎は、高齢者や障がい者が怪我をする事が無いようにバリアフリーにした方が良かったと思った。



## ○既存施設の劣化状況調査

- 構造調査：目視・打診調査、コア抜きによるコンクリート強度調査・中性化試験、かぶり厚さ調査、既存の補強設計評定書の精査
- プール調査：目視調査
- 外壁調査：目視・打診調査、塗膜付着力試験、中性化深度測定
- 防水調査：目視調査

上記調査の結果、目視できる範囲でのクラック・爆裂の他、中性化の進行が確認できた。劣化状況は棟毎に異なるため、各棟の状況に応じた補修が必要である。  
 ※A棟についてはコンクリート強度がおおむね低めで、品質が均一でないことが確認されたため、前年度の事前調査段階で改築を決定した。

調査結果概要一覧表

棟名	強度	中性化 (mm)	付着力	躯体劣化
A	×	内壁 40 外壁 29	未調査	大
B	△	内壁 33 外壁 一	NG	小
C	○	内壁 15 外壁 25	NG	大
D	○	内壁 一 外壁 13	OK	小
E	○	内壁 一 外壁 19	OK	小



## ○基本計画

### 建物にやさしい

#### <躯体の補修・補強>

耐震補強について、鉄骨ブレースではどうしても改修的な外観になり、教室の眺望や採光をブレースが阻害するため、アウトフレーム工法を併せて検討。

#### <躯体の保護>

躯体の熱膨張や中性化の抑制、紫外線や水の侵入の恐れがない等の効果の観点から外断熱工法を躯体保護対策として利用することを検討。

#### <内外装・設備の維持管理を容易に行うための対策>

高耐候性の材料や防汚性能品の採用、将来変化に対応できるインフラートの確保等。

### 人にやさしい

#### <ユニバーサルデザイン>

EVや体育館への渡り廊下設置、昇降口廻りの段差を解消する外構レベル設定等によりバリアフリーを実現。

#### <教育環境の改善>

室内環境の改善だけでなく、予備教室やフレキシブルな建具など多様な教育環境に対応した教育環境整備。

#### <憩いの場の創出>

本校の特徴である中庭空間を中心とした憩いの場整備。

#### <災害時対応>

避難所としての運用を考慮し、災害時でもトイレ・照明・電源・熱源が確保できるように整備。

### 環境にやさしい

「創エネ」「省エネ」「節エネ」の3つの観点で、快適で環境負荷の少ない環境施策を検討。

### 創エネ

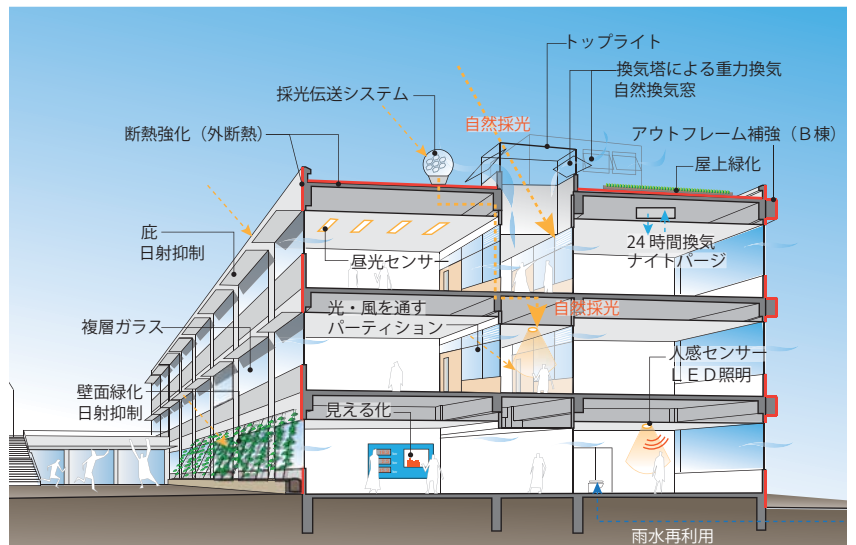
太陽光発電パネル (30kw)、太陽熱利用  
自然採光システム、雨水再利用

### 省エネ

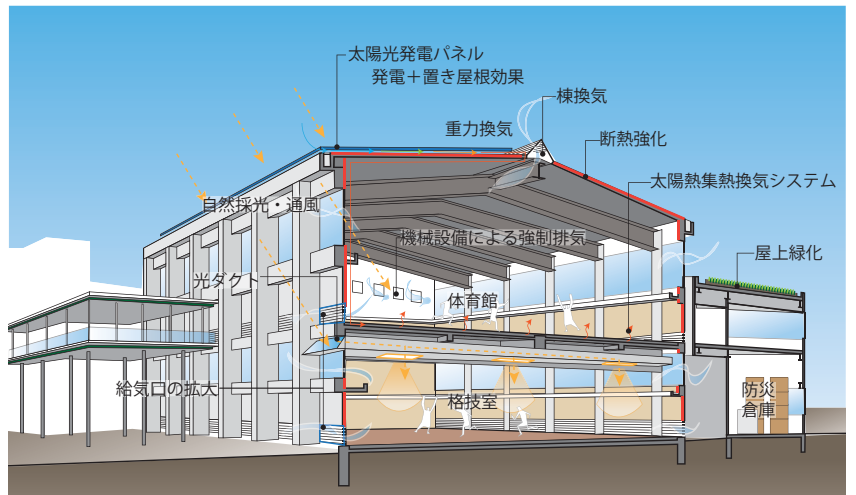
断熱強化 (外断熱、複層ガラス)、日射遮蔽 (庇等)  
換気塔、省エネ設備機器 (人感センサー、LED等)

### 節エネ

「見える化」による啓蒙  
(エコアイテムの見える化、効果の見える化)



【校舎イメージ】長寿化に必要な補修・補強を行った上で、中廊下型の問題である廊下の暗さや風通し等を改善し、快適・省エネな教育環境を目指す。



【体育館イメージ】自然エネルギーを利用した換気・採光システムの導入により、教育環境としても避難所としても質的向上を目指す。また、アリーナが3階にあるため、アリーナにバリアフリーで校舎と接続できる渡り廊下を設置。

## ○概算工事費

	金額
改築部分	8億0000万円
改修部分	9億2200万円
基本計画提案項目	6億1300万円
合計	23億3500万円

上記コストは全て直工。仮設・校庭整備等は含まず。

## ○スケジュール

